

誕生

終戦

東京オリンピック

オイルショック

平成改元

携帯電話普及

逝去

1931年

1945年 (14歳)

1964年 (33歳)

1973年 (42歳)

1989年 (58歳)

1997年 (66歳)

2010年 (78歳)

## 戦渦を乗り越えて歩んだ軌跡

「幼い頃に父親を亡くし、戦争で二人の兄を失い、若干十四才で一家を支え、頑張り抜いてきたと聞いています。父の人生はまさに波乱万丈で、転んでも起き上がった時には、更に上の段に這い上がるような人でした。口が悪く「怖い」というイメージを持っていた方も多いでしょうが、根は優しくテレビ屋で寂しがり屋な面もありました」（長男 敏夫）

「生涯を議員として全うした父を、私は誇りに思います。病院で息を引き取る前に、議員としての挨拶を何度も繰り返したときには、心からお疲れ様でした、と言う事ができました。しかし、父がそのような立場になれたことは、大勢の皆さんのおかげだと、この場をかりてお礼申し上げます。本当にありがとうございました」（長女 弘子）

「発病後一時、快方に向かった時には幼い孫を連れ父が好きだった鮎釣りに行ったり、兄弟が皆で温泉に行ったりと、穏やかな時間を共に過ごせた事は、私達の宝として心に残ることでしょう」（次女 敏子）

父は、多くの人に愛され、慕われ、心豊かな人生に恵まれました。「皆様、本当にありがとうございました。」そして平成二十二年二月十七日、早春の代名詞ともいえる梅の蕾が開き始める季節に、七十八歳で人生の終着駅に着きました。

◆  
多くの人との出会い、共に時間を過ごせたことに、父徳次は満足していたと存じます。お世話になった皆様へ、御礼の言葉を伝えることができないうままとなりました父に代わり、生前のご厚情に心より感謝申し上げます。略儀ながら書中をもって御礼申し上げます。

平成二十二年二月十七日

埼玉県川越市寄川町一―一三一―四

喪主 長男 坂本敏夫

長女 坂本弘子

次女 坂本敏子



1938年 - 2010年